



風景を撮る



写真と文とが響きあう

みのすけ



目次

和蕎麦	1
沈黙のビル	2
竹取物語	3
お知らせ	6

和蕎麦



DSC \ \

陶器皿に二八蕎麦が盛られ、アンティークな木のテーブルに置かれた。

蕎麦と陶器皿とテーブルの色合いが絶妙なので、店に撮影許可を頂きカメラを向ける。

店の軒下なので、通行人がこちらを見ながら怪訝な顔で通り過ぎる。

テーブルの前にはこげ茶色の椅子があるが主役の蕎麦色の邪魔をする。

脇役の椅子の配置に迷うが、蕎麦の味が落ちない内と、3枚撮って諦めた。

沈黙のビル



DSC \

お盆の墓参りで久しぶりに遠出し、梅田で少し街風景を撮る。

新型コロナウイルスで緊急事態宣言化の高層ビルには沈黙感が漂う。

信号待ちの企業戦士たちから家族のための命がけの息遣いが伝わってくる。

もう平和ボケで済ませる時代は終わり、自主責任への活性が始まった。

(重苦しい風景には黒を効かせる白黒撮影にした)

竹取物語



DSC \

昔の話になります。

高校時代は学校が自然豊かな山の中にあり、都心から通学だったので気に入っていた。

昼休み時間は山道を散歩出来るが、竹藪には蝮がおるので危険、蝮に噛まれた人がいるとの噂。

「絶対入るな」と学校からお達しが有り、竹藪には立ち入り禁止。

噛まれた人がどうなったかは分からない。

卒業を真近に控えると何かに反抗したく、自分の勇気に賭けたくなり、竹藪に一人で入って行く無茶を試みる。

竹藪に通じる脇道を、笹を除けながら進んで行くと少し広い場所に出た。

一瞬日差しが射し青竹に反射し、真っ青な神秘的な世界が広がり大感動。

華やかだが静寂感のある美しい情景、かぐや姫に会えそうな場面に出会った。

残念だが、授業に遅れないためにその日は一旦帰ることにした。

うれしいことに自分だけの秘密基地が出来た。

翌日昼食を早く済ませ、あの感動を味わいたく再び行くことにした。

しかし今日は竹藪への細い道にヘビが居座っている。初めての事だ。

枝でどけようとしたらヘビは鎌首をもたげ口を広げ、飛びかかる攻撃態勢に入った。

口から牙が見え、危険を感じ恐くなりヘビと間合いを取った。

ヘビは攻撃態勢を緩めず、「もうここに来るな」と言っているようだ。

神秘的な青の世界を見るには本当に命を懸けなければならないと自覚した。

それっきりそこには入っていないがあの神秘的な青さは今でも私を引き付ける。

あの時、無理をして藪に入っていればヘビに噛まれていたかも？

もしかしてあの噛まれた人は自分だったかも知れない。

ヘビが人生を生死を懸けた勇気で選別させ、安全な道を選んだ自分が居た。

噛まれても命が助かっていれば、怖いものなしの人生を送っていたのかも知れない。

へびを避けたため何事にも慎重になった。

どちらの自分が良かったかは分からない。

心の奥では竹取物語のかぐや姫の世界を夢想している自分が残っている。

お知らせ



DSC \

オリジナル写真は写真素材サイトの PIXTA と photolibrary で販売中です。

興味のある方は作者名みのすけ で検索して頂ければ幸いです。

よろしければ是非ご高覧ください。

風景を撮る

著 みのすけ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
